子どもの日本語教育研究会 研究企画委員会プロジェクトA
語り合う会　in東京・金沢・山形・浜松

2026年９月13日(日)

神戸市における

「外国につながる児童生徒」への支援について


ひろりん


さぽたん

神戸市教育委員会事務局　学びの推進課
こども日本語サポートセンター
指導主事　石動 徳子（いするぎ のりこ）

神戸市立学校に在籍する「外国につながる児童生徒」の現状

○地域の散在化／子供の背景の多様化
（言語や文化背景、家庭環境、発達特性など）
→それぞれの子供が、どの場所でも必要な支援を受けられるように

○教職員の外国人児童生徒等教育に関する意識
→「教職員全体で育てる」意識を
→「支援」と同時に、「子供の本来持っている力や強みを伸ばす」視点も

令和８年度版「外国人児童生徒等が就学することになったら」

～　神戸市の「日本語指導を必要とする児童生徒」へのサポートシステム　～

保護者・区役所から就学に

『日本語指導が必要な児童生徒等

こども日本語サポートセンター

母語による支援

日本語による日本語指導

その他

こども日本語サポートセンターでの日本語指導

●「日本語ひろば」の開設【拠点型

- 新渡日の児童生徒（日本
- 11 日間センターで指導　午
- 学校生活を笑顔で送るため
- 小学生は保護者の送迎が必須（中学生は最初の３日間）

※保護者の送迎が不可の児童生徒には、派遣型の実施を検討

●「オンライン教室」の開設【「日本語ひろば」を終了した子供たちへ】

- 「日本語ひろば」を終了した児童生徒が対象
- 週２日、午前中１時間(全
- 「日本語ひろば」を終了した翌

こども日本語サポートセンターからの派遣・貸出

対象：小・中学生　幼稚園児　高校生

①初期生活適応支援　②教科学習の補助

③保護者への支援　　×日本語指導

●授業同時翻訳「ポケトーク for スクール」の貸出

本語指導】

程を実施する学校への

- 学校への訪問指導（週１回）

【母語による通訳・翻訳・教育相談】

●ランゲージコーディネーター

ム語　ネパール語

「どこでも通訳」の貸出

ントを配布

日本語指導加配教員配置校

・37 校（小 27 校、中 10 校）
兼務校　小 38 校　中 18 校

日本語指導支援事業（日本語指導支援員による日本語指導実施校）

小学校 JSL 教室（自校）　７校（週 1～2 回　教育課程内）
東灘・本庄・春日野・中央・山の手・兵庫大開・駒ケ林

中学校 JSL 教室（拠点校）　３校（放課後学習）
神戸生田（毎日）、太山寺・小部（週４日）

こども日本語サポートセンターの取組

❶ 母語による支援

① ランゲージ支援員A・B（母語支援員）の派遣

・支援目的：学校生活への早期適応促進、コミュニケーションの円滑化、生活適応、学習支援、心の安定

・支援内容：授業中における通訳・翻訳、あゆみや連絡文書の翻訳

ランゲージ支援員 A	ランゲージ支援員 B
小・中 在日期間1年未満	幼・小・中・高
最大週に4日 原則1回4h	来日1年~2年未満 原則1回2h

こども日本語サポートセンターの取組

❶ 母語による支援

② ランゲージコーディネーターによるサポート
（中国語・ベトナム語・ネパール語）

R８～

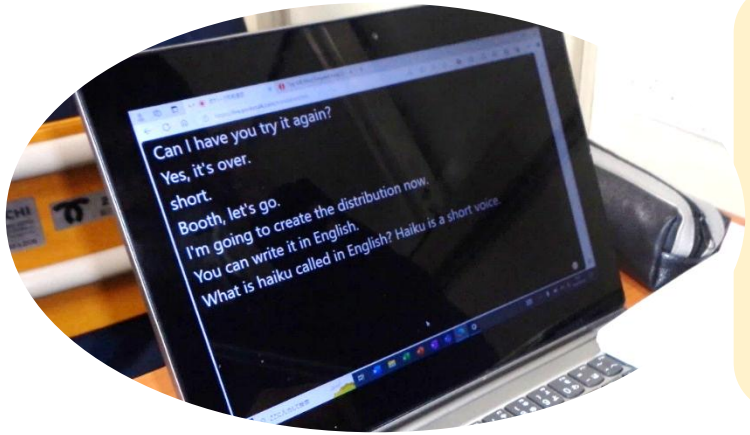
児童生徒・保護者・学校の困り感に対応するため、または学校と家庭との架け橋としての通訳や翻訳業務、児童生徒・保護者の教育相談を行っています。

こども日本語サポートセンターの取組

❶ 母語による支援

③ 遠隔通訳システム【　どこでも通訳　】

④ 授業通訳支援ツール【　ポケトーク for スクール　】 R6～



教員の話す日本語が、Bluetoothマイクを通じて、
児童生徒PCに瞬時に児童生徒の母語で表示
⇒R8：教員用iPadから、QRコードで翻訳結果を
児童生徒用iPadに共有

こども日本語サポートセンターの取組

❷ 日本語による日本語指導

① 日本語ひろば（拠点型初期日本語指導教室）　R6～

海外から日本に来たばかり(新渡日)の日本語が理解できない児童生徒が、日本での学校生活をスムーズにスタートできるよう、学校で最低限必要な日本語、文字の読み書き等を日本語教師資格をもった指導員が指導しています。

対　　象	**小1～中3の新渡日の児童生徒**
指導内容	**初期（サバイバル）日本語**
指導形態	**1クール11日間(33時間)**
	※年間10クール実施

※保護者の送迎が難しい場合は、派遣型を実施

こども日本語サポートセンターの取組

❷ 日本語による日本語指導

② オンライン教室（にほんごひろば）

〇対象

・拠点型初期日本語教室での学習が終わった児童生徒
※初期指導が必要な児童生徒についても参加可
※日本語指導加配教員配置校・兼務校は除く（原則）

〇計画

・週２回(火・木または水・金)　　・１ターム10回(５週)
・小1～3年クラス・小4～6年クラス・中学生クラス

学校生活に必要な語彙や文型を話すことができるようにする機会を多く作る。他の児童生徒との交流を図り、日本語で会話する楽しさに触れる。

こども日本語サポートセンターの取組

❷ 日本語による日本語指導

③訪問指導（週１回）

④日本語指導についての助言・提案

こども日本語サポートサポートセンターのコーディネーター・日本語指導員・指導主事が日本語指導が必要な児童生徒のいる学校を週1回巡回して、日本語の示範授業、特別の教育課程の助言・相談、対面指導・DLA等を行っている。

こども日本語サポートセンターの取組

❸ その他

① 研修の実施

（日本語指導加配教員研修・日本語指導者養成研修を各6回）

② 日本語指導加配教員へのサポート

③ 大学との連携

・ランゲージ支援員説明会
・神戸市内小学生と留学生の交流会
・指導主事の大学派遣

こども日本語サポートセンターの取組

❸ その他

④ 日本語学習デジタルコンテンツ研究開発

「みんなで日本語」

【語彙動画】　名詞・58本　動詞・39本　形容詞・16本
【シナリオ動画】　16本

〇神戸市の教員・児童生徒
　KIIF端末や教員用・児童生徒用iPadから（Microsoft Teams）

〇一般の方
　スマートフォン・PC等から

兵庫教育大 さぽたん　検索



こども日本語サポートセンターの取組

❸ その他

⑤ 外国人児童生徒への支援団体との連携

６月に「外国人児童生徒支援団体と学校との情報交換会」を開催

⑥ 外国人児童生徒、日本語指導が必要な児童生徒等に係る実態調査

⑦ 外国人児童生徒・保護者への高校進学に関する情報提供

７月に「就学支援ガイダンス」を開催

※兵庫県の外国人生徒特別枠：6校→R9年度より９校、
外国籍かつ来日後3年未満を対象

こども日本語サポートセンターの取組

❸ その他

⑧ 日本語指導支援事業（小学校7校・中学校3校にJSL教室を設置）

小学校 JSL 教室	事業名	中学校 JSL 教室
教科学習支援のための日本語指導が必要な外国人児童等が在籍する小学校をモデル校に指定し、学習言語の習得のために支援員を派遣している。		日本語理解が十分でないため、学校生活や学習活動への支援が必要な生徒に対し、学習言語の習得を支援している。
東灘　本庄　春日野　中央　山手 兵庫大開　駒ケ林	実施校	神戸生田　太山寺　小部
授業中における日本語による 教科指導	実施内容	放課後における高校受験に向けた 学習・日本語の読む力・書く力の指導
「取り出し指導」による 特別の教育課程	特色	特別の教育課程の 補習的役割
週1～2回程度	実施目安	初級クラス週5回 移行期クラス週1～3回

こども日本語サポートセンターの取組

❸ その他

⑧ 日本語指導支援事業（母語や母文化の習得支援として、小学校7校に日本語指導支援センター校を設置）

事業名	日本語指導支援センター校（帰国外国人児童に係わる日本語教室支援）
実施校	本庄　本山第二　こうべ　港島学園前期課程　御蔵　真陽　神陵台　（小学校）
内容	放課後における教科学習に対応した指導　日本の文化等についての指導
特色	アイデンティティーの確立や日本語習得のため、母語や母文化の習得支援
実施	年間30回～35回

「これまで」と「これから」

○地域の散在化／子供の背景の多様化
（言語や文化背景、家庭環境、発達特性など）
→それぞれの子供が、どの場所でも必要な支援を受けられるように

・**初期日本語指導教室の開設**

学校現場の声、モデル校での実施など
少しずつ根拠や実績を積み重ねる

・**切れ目のない支援体制**
（拠点型／派遣型 → オンライン・訪問指導 → 在籍校へ繋ぐ）

・**学校が活用しやすい支援ツールの工夫**
（デジタルコンテンツの開発、教材リスト、
転編入学セット、ICT活用 など）

学校の先生方も多忙！
先生方の視点に立って
サポート

「これまで」と「これから」

○教職員の外国人児童生徒等教育に関する意識

→「教職員全体で育てる」意識を

→「支援」と同時に、「子供の本来持っている力や強みを伸ばす」視点も

すべての先生方に知ってもらう機会をつくる

・**教職員への研修**（日本語指導加配教員研修・養成研修、法定研修、各校での職員研修、管理職への研修）

・授業動画をもとに「日本語指導・支援は『特別な』教育でない」ことへの気づき

・異言語体験を通して「『分からない』とはどういうことか」「孤立感」を体感

・外国にルーツをもつ方の語り、他校の実践例

・日本語指導加配教員間のネットワーク

・チームの力を意識

・学校現場のリーダーをつくる

「これまで」と「これから」

- **「つなぐ力」の向上**
  校内（日本語指導担当者と在籍学級 など）
  校外（地域、校種間 など）
  子供同士（交流会 など）

- **日本生まれ・日本育ちの子供への支援**

- **初期日本語指導体制の拡充**